



No.104 2008.12.

発行 真言宗豊山派  
北田山宝泉寺  
所沢市北岩岡130  
編集 色摩真琴

## 旧本堂、活かす道

本堂落慶以来 10 年を経過し、いよいよ旧本堂の今後を真剣に考える時期に来たと判断しております。それを活かす方向で・・・。

新本堂は最初の計画では旧本堂を取り壊し、その跡地に予定したものでしたが諸般の事情から位置を変更し現在のようになり、そして旧本堂はあえて暫定的に残され手つかずのまま今に至りました。しかしこの 10 年の間何もしなかったわけではなく、なにをどうすべきかといつも胸の中で反芻してきましたが、このまま朽ち果てるのを待つかのような状態になっているのは忍びないと考えています。耐震性などは無いに等しく、新しい本堂は建ちましたが、古い方がそのままでは本堂建立の大事業もまだ道半ばという気がするのです。

寶泉寺は江戸時代中期の新田開発の政策によって北田新田と共に開山され、歴史は古いのですが、不幸にして住職不在の期間が長く歴史を示す事物は非常に少なく、旧本堂はその第一のものです。文政12年、今から179年前に建立されました。長い歴史を経て昭和37年には茅葺き屋根が瓦へと葺き替えられ、以来少しずつ手が加えられて現在に至り、柱や梁は多分当時のものと思われます。長い間親しんできた歴史ある本堂を無駄にしない、そして懐かしむ気持ちや風情、趣などなるべくそなえたまま旧本堂を今後も活かす形で後世に伝えたいとせつに願っております。

実は懸案は他にも、それは六地藏様と大師堂でこの2件も本堂建立に当たって一時しのぎに移されたものでした。特に六地藏様は台座や蓮華座も長年の風雨にさらされて風化が激しく、さらにお堂は鉄製ですが根元が錆びてぐらつき、すでに何らかの手当をしなければならぬ段階まで来ております。このようなことから旧境内地域を旧本堂にあわせて六地藏、大師堂をバランスよく配置し整備したいと考えるに至りました。実施に向けては今後段を踏んでということになりますが皆様からのご意見、ご提言をいつでもお待ちしております。

ここまで書きますと「資金はどうするんだ」といわれそうです。何事も先立つものはその資金ですから無理ありません。寶泉寺が今まで積み立ててきた資金をこれらに当て、将来に無理のない資金計画を立てたいと考えています。

# 雑木林 ぞうきばやし

境内の一角の雑木林ですが今では寶泉寺の景観をなす重要なもので、旧本堂と同様歴史性を伴う後世に残すべきものと考えています。そのために皆様のご協力をお願い致します。

ところで寶泉寺は北田新田の開発と共に開山されお寺の護持のため境内地の他、畑約五町歩、雑木林約一町歩が与えられました。畑は戦後の政策によって失いましたが、雑木林は現在まで約300年営々と利用されてきました。昭和37年の屋根吹き替えにはこの林が薪として売られその資金になりましたし、確かに20数年前までは雑木林の利用料までいただいております。旺盛な広葉樹の萌芽力を利用した薪や炭など、また肥

料となる落ち葉さらには山菜やキノコなど生活に直結するものだったのです。特に当地方では落ち葉を使った農法があり、細やかな管理のもとに保持されてきました。しかし暮らしぶりの大きな変化によって今ではその面影はすっかり無くなってしまったのです。

さてお願いですが、堆肥用の落ち葉を使っていただきたいことと、伐採後の木材の利用についてです。

ここ数年少しずつ伐採し林の更新を計っていますが木々の生長はそれを上回り、今冬はいつもよりも広範囲の伐採を予定しております。堆肥、椎茸栽培、薪炭材など雑木林の利用の希望がある方はぜひ寶泉寺までご連絡をお願い致します。

## 元旦 お経の会

午前9時 寶泉寺本堂

例年の通り元旦のご案内です。平成21年のスタートを、寶泉寺ご本尊前からしてみませんか。お札、お守りなどを用意してご参詣をお待ちし致します。

なお、お持ちの方は輪袈裟、数珠を、また昨年までの古いお札、お守りもお持ち下さい。住職、副住職は午前0時を期してお勤めをしておりますので、こちらにもどうぞご参加下さい。本堂へは正面階段を上り、浜縁を右側に回ったところが入り口となっております。

必ず毎年ニュースの話題になる「初詣」。ある雑誌によると(大意)『江戸町民の正月にはなかったそれが江戸の正月の現実である。正月3日は城下の諸大名がその格式によって行列を伴い登城、下城するので市中の通りはその行列で大変な混雑、道路の横断もままならずその列を乱してしまうものなら「斬り捨て御免」の大罪だった。町人が自由に通りを歩くことなどは不可能だった』とあり『江戸町民は大名の年賀を避けて恵方詣りをした』いつでも寶泉寺が皆様の「恵方」となれますように願っております。

# 副住職 雑記

⑧

ここ数年、真言宗豊山（ぶざん）派の総本山である長谷寺へ年2回ほどお手伝いに行っています。長谷寺は花の御寺とも称され四季折々美しい景色が楽しめますが、特に春の牡丹（7000株を超えます！）と秋の紅葉、この二つの時節がそれは見事で、私がお手伝いに参加しているのもこの期間がほとんどです。ちなみにどんな手伝いをしているかという、参拝に来られた方の境内案内、そして僭越ながら幾つかのお堂で行われる法話会でお話をさせてもらっています。

私は常々、長谷寺は三つの事柄で総本山と言えるのではないかと考えています。真言宗豊山派の総本山であることは先に述べたとおりですが、二つ目は全国にある「長谷寺」の総本山です。長谷寺のご本尊である10メートルを超える十一面観音さんは長谷式（型）観音と言って右手に錫杖を持つ、変わった形をしています。錫杖は本来お地蔵さんが手にしている法具ですから、お地蔵さんの功德をも兼ね備えた観音さんということで昔から大人気だったわけです。関東に住んでいる方より「鎌倉の長谷寺と関係があるのですか」といった質問をしばしば受けることがあります。実は鎌倉の長谷寺の観音さんは奈良の長谷寺の観音さんを模して作られています。この鎌倉の長谷寺のように長谷式観音をぜひうちでも祀りたいという声は昔から多く、現在は全国に300弱の長谷寺が存在しています。

最後は「西国三十三カ所観音霊場」（以下、観音霊場）の総本山としての長谷寺です。観音霊場は養老二年（718年）長谷寺に住していた徳道上人の発案によって設けられ、およそ200年後花山法王によって全国に広められました。現在は8番目の霊場である長谷寺ですが（発足時はもちろん1番目でした）、その起源は長谷寺にあるということから観音霊場の総本山と称しても言い過ぎではないでしょう。

さて、今年には前述の花山法皇の1000年忌に当たる年で、現在、各観音霊場で秘仏の同時公開など様々なイベントが行われています。我々が長谷寺も例にもれず、しかも長谷寺では「誰でも」十一面観音さんに直に触れることができる（！）という太っ腹な特別拝観が開催中です。私も先月、本堂案内のお手伝いをさせていただいたのですが、涙を流して喜ばれる方がたくさんいらっしゃったのがとても印象的でした。この特別拝観は年明けから一旦お休みに入り、4月から再開されます。なお宝泉寺のお檀家さんであればいつでも観音さんと直接縁を結ぶことができますので、参拝される方はぜひ事前に宝泉寺までご連絡ください（特別拝観については旧本堂に貼ってあるポスターもご覧ください）。

最後に観音さんのお話を一つ。観音さんの正式なお名前は「観世音菩薩」または「観自在菩薩」とおっしゃいます。世の中に溢れる苦しみの声や切実な願いを自在に見聞き、救いの手をさしのべてくれることからこのお名前がついているのですが、実は「観自在」にはもう一つの意味があります。それは観音さんの力によって「私たち」が「自由自在に物事を観ることができるようになる」という意味です。日常、私たちの周りにはたくさんの苦しみが存在します。しかし良く目をこらせばそれ以上の楽しみが

(毎日ご飯を食べられることだって立派な楽しみです)あるはずで。それにあらゆる困難は私たちが前進するためのチャンスに成り得るかもしれません。「自在に観る」とはこういうことです。

海の向こうで新しい大統領は「change(変化)！」と叫び、日本では「変」の一字が今年の漢字として選ばれました。世界と私たちはいつでも変わることができます。その初めの一步こそが「自在に観る」ということになるのではないのでしょうか。

来年も良いお年でありますように。

# 年 回 表

平成 21 年



一 周 忌	平 成 2 0 年
三 回 忌	平 成 1 9 年
七 回 忌	平 成 1 5 年
十三回忌	平 成 9 年
十七回忌	平 成 5 年
二十三回忌	昭 和 6 2 年
二十七回忌	昭 和 5 8 年
三十三回忌	昭 和 5 2 年

年回表に仏様の命日を照らし合わせるとき、ぜひ他の仏様の命日もあわせてご確認下さい。かさなる場合、一般的にはどちらかへあわせて一緒に法事を勤めておられます。ご不幸のお知らせもすみやかに宝泉寺までお願い致します。



## 頭 上 落 雪 注 意



あえて毎年お伝えしています。特に本堂の周囲、それと墓地に至るスロープ、墓参などの折には屋根からの落雪にご注意願います。

## 編 集 後 記

- ・暖かい冬至、秋の気候とか。年の瀬に世界同時経済混乱、何もかも値上がりした物価はあっという間に低下、しかし売れないという、これに伴い世は混乱、気候だけでなく心はいつも温かくいたい。
- ・先日、所得税の年末調整をお願いしたら国民年金の払込金がいっつもより少ない、払込期間が 60 歳の誕生

月を機に終了していた。変なところで我が年を自覚した次第、今年は痛風の発作におそわれ生活習慣病も気になりだした。寶泉寺晋山 30 年、本堂落慶 10 年、還暦。来年は人生の新しい世紀が始まる。本尊薬師如来の御加護あらんことを切にお祈り申し上げます。

Dec.23.2008(琴)